

果樹におけるカラス害の簡易防止法

花田, 信章
九州大学農学部

中川, 幸夫
九州大学農学部

鳥飼, 芳秀
九州大学農学部

若菜, 章
九州大学農学部

<https://doi.org/10.15017/12613>

出版情報 : 九州大学農学部農場研究資料. 7, pp. 54-55, 1984-10. 九州大学農学部附属農場
バージョン :
権利関係 :

果樹におけるカラス害の簡易防止法

花田 信章, 中川 幸夫, 鳥飼 芳秀, 若菜 章

1 目 的

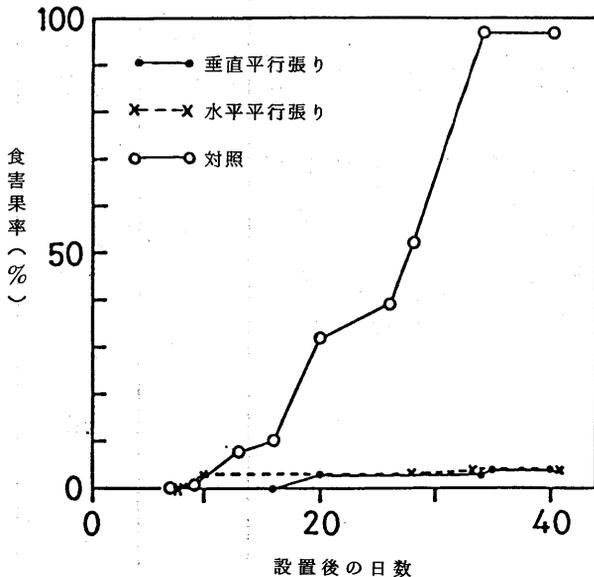
鳥類による農作物被害の中で、カラスによる被害はスズメに次いで大きく果樹類にも著しい。カラスは鳥類の中でも最も進化したものの一つと考えられており、この害を確実に防止する方法としては網による完全被覆に頼るしかなく、果樹類では多大の経費を要する。本果樹園のある粕屋演習林はカラスの冬ねぐらに近く、たえずカラスの飛来を受けており、被害も大きい。そこで簡易防止法として、釣糸の利用を検討した。

2 方 法

長さ7mの竹製の支柱2本を高さ1.5mで地面に対して水平に設置し、1m間隔で長さ20mの釣糸(3号)を平行に張る水平平行張り(第1図)と支柱を地面に対して垂直に設置し、1m間隔で平行に張る垂直平行張り(第2図)、及び対照区を設けた。いずれの区にも早生温州を $20 \times 7 \text{ m}^2$ 内に放置し、経時的に食害果数を調査した。また実際に垂直平行張りを果樹園に設置し防止効果について検討を加えた。

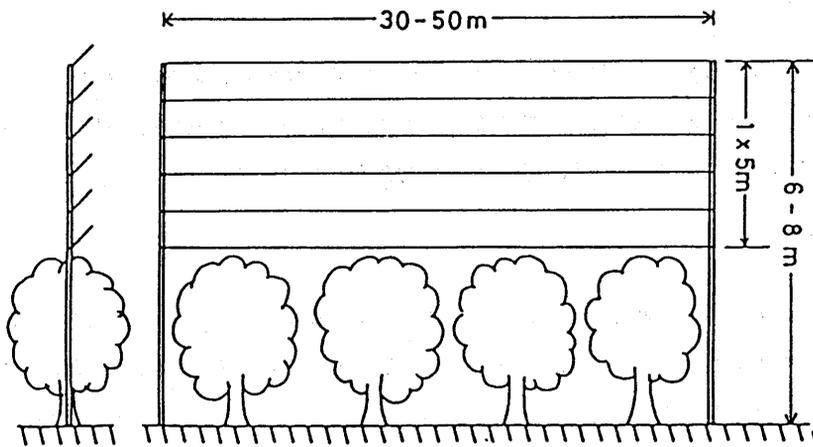
3 結果及び考察

双方の設置方法ともカラス害を受けたが、被害は少く、高い防止効果が得られた(第1図)。この

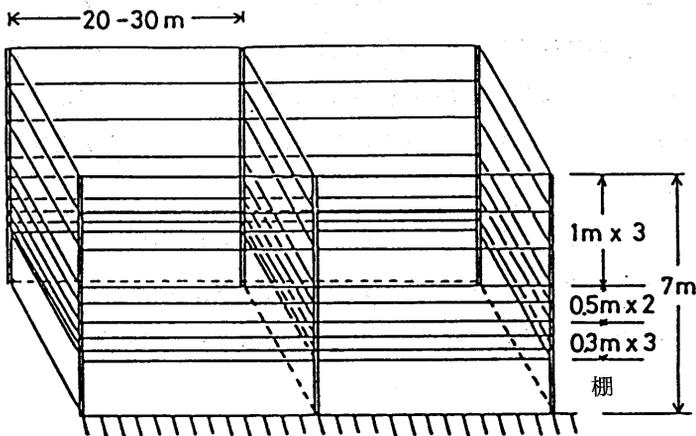


第1図 カラスの食害に対する釣糸防鳥線の効果

効果は被害を受けた場合に糸が切られていることから、釣糸がカラスの目に見えにくいことによると思われる。またカラスが空中での接触を嫌うこともその一因と考えられる。垂直平行張りではカラスが垂直の離着陸が困難なことがさらに効果を高めているようである。高木となる果樹類にとって設置方法が簡単である垂直平行張りを各種果樹に対して設置した場合、20m以内では被害がかなり軽減された(第2図と第3図)。これらのことから、釣糸による防鳥効果は完全なものではないが、その害を軽減するには有効な手段であると考えられる。釣糸の間隔、他の防鳥手段との組合せ等の検討により、さらに防鳥効果を高めることも可能と思われる。



第2図 立木仕立樹に対する釣糸防鳥線設置の概略図



第3図 棚仕立樹に対する釣糸防鳥線設置の概略図